

はじまりの季節^{きせつ}

にほん がっこう かいしゃ では、4月に新しい年^{あたら}がはじまります。たとえば、新しく
しょうがっこう はい こ は、4月に「小学1年生^{ねんせい}」になって、次の年の4月に「小
がく ねんせい かいしゃ あたら はい ひと きほんてき がつ はい
学2年生」になります。会社でも、新しく入る人は、基本的には4月に入ります。
す。

カレンダー^{じょう}上では、1月から12月が「1年^{ねん}」です。ですから、1月に「今年^{ことし}
は、たくさん旅行^{りょこう}に行きたい！」など、「新年^{しんねん}の目標^{もくひょう}」をみんなで話したりしま
す。

がっこう かいしゃ では、4月から3月までの「1年^{ねん}」を、カレンダーの「年^{とし}」と区別^{くべつ}
して、「年度^{ねん ど}」といいます。そして4月に「今年度^{ことしねん ど}は、数学^{すうがく}の勉強^{べんきょう}をがんばりま
す！」など、「新年度^{しんねん ど}の目標^{もくひょう}」を話したりします。

さて、なぜ日本^{にほん}の学校^{がっこう}や会社^{かいしゃ}では4月から3月を「1年^{ねん}」としているのでしょ
うか。

いくつかの理由^{りゆう}があるようですが、いちばん大きな理由^{おお りゆう}は、「お米^{こめ}」に関係^{かんけい}
あるそうです。古^{ふる}くから日本^{にほん}では、毎年^{まいとし}、人々^{ひとびと}は「お米^{こめ}」を税^{ぜい}として政府^{せいふ}に納め
ていました。それが、19世紀^{せい き}の後半^{こうはん}から、「お米^{こめ}」ではなく「お金^{かね}」に代わりま

した。お米は9月から10月にできます。できたお米は、大阪や東京など大きな町に送られて、そこでお金に変えられました。そして、そのお金は政府に納められました。昔は交通が不便でしたから、お米を送るのにとっても時間がかかり、お米を全部お金に変えるのに何ヶ月もかかりました。

そのため、政府が1年間の税金を計算したり、次の年の予算などを決めたりすることが、12月までに終わらなかったそうです。そこで、政府は4月を1年の始まりとしました。それに合わせて、政府にお金を納める会社や、政府からお金をもらう学校も、4月から「新しい年度」が始まるようになりました。

最近、学校を9月から始まるようにしようという声もあります。いくつか理由がありますが、いちばん大きな理由は世界の多くの国々が9月にはじまるからです。もし日本の学校が9月からはじまることになれば、日本に留学に来る学生も、日本から外国に留学に行く学生も、もっと便利になります。

もう一つの理由は、大学や高校に入学するための「入学試験」を、夏にできるようになるからです。今は、基本的には入学試験は1月から3月にあります。この季節は寒くて、風邪をひいてしまう人も多いですし、雪の降る地域では、雪のせいで試験会場へ行けないこともあります。もし、9月に入学することになれば、夏に入学試験をすることができます。

個人的には、学校は9月からはじまったほうが便利だと思います。しかし、心

では「春からはじまったほうがいい」と感じます。なぜなら、今までずっと「はじまりの季節」は「春」だったので、卒業や入学の思い出は、桜の花や、春のやさしいあたたかさといっしょにあるからです。名作の映画や歌の中でも、「春」は「新しいはじまり」として表現されています。

もし学校や会社が9月からはじまることになっても、自分の「心」が慣れるまでに何年か、いや、何十年か、かかってしまいそうです。

(1210字)

(2022.3 Written by Junko SATO)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.